

日本連盟のホームページ([http://www.scout.or.jp/for\\_members/program/WSEP/](http://www.scout.or.jp/for_members/program/WSEP/))で案内されているように、平成 24 年 4 月 1 日より、世界スカウト環境プログラムがスタートしました。

趣旨・世界スカウト環境バッジの取得要件・着用位置など、プログラムの詳細は、上記ホームページを、熟読いただくとして、ここでは、ホームページに掲載されていない補足内容と、兵庫連盟独自の運用方法について説明します。

## ■ ポイント 1

このプログラムの取り組みによって、世界環境保護バッジ(通称パンダバッジ)が、世界スカウト環境バッジに替わりますが、一定の取得要件を満たした者のみが着用できる点が、従来と異なります。

## ■ ポイント 2

このプログラムは WOSM の示すフレームワークに基づくもので、世界共通の内容です。バッジも世界共通であり、それを着用しているということは、全世界で一定の基準に見合った活動を実施したという証となります。そのため、地区コミッショナーは基準(WOSM の示すイメージ)を理解し、指導・助言し、隊長の認証を確認してください。

## ■ ポイント 3

**CS**、**BS**、**VS・RS** の各区分でプログラムが設定され、それぞれ色違いのバッジがあります。スカウトは部門に上進するごとに、当該区分のバッジ取得に挑戦します。

## ■ ポイント 4

申請から交付の手順は、以下のとおりとします。

隊長が認証⇒団委員長から地区に申請⇒地区コミッショナーの確認⇒県連盟に申請⇒バッジの交付

## 詳細説明

### ■ ポイント 1

世界環境保護バッジ(通称パンダバッジ)は外してください。代わりに世界スカウト環境バッジを着けることとなります。ただし、従来の世界環境保護バッジは、環境活動に取り組んでいることを示すバッジで全員が着けていましたが、新しい世界スカウト環境バッジは、進級章と同じように、一定の取得要件を満たした者でなければ着けることができません。

### ■ ポイント 2

WOSM の示すフレームワークは【資料 1】【資料 2】のとおりです。「5 つの分野の調査・熟考」と「行動」について、11 歳未満、11～14 歳、15 歳以上の各年齢区分でどのような取り組みをすべきかと、活動のガイドラインが示されています。これを日本の進級課目に当てはめたものが、今回のバッジの取得要件です。

取得要件を見ると、右の図(詳細は【資料 3】)の左上色の塗ってある部分については、CS、BS の進級課目が割り当てられていて、基準が明確ですが、色の塗っていない VS・RS での要件と、全部門の「行動」については、WOSM のフレームワークの内容がほぼそのまま記載されており、基準が明確ではありません。

この無着色の部分の具体的内容と認証は、各隊長の裁量に任されることとなります。しかし、世界共通のバッジシステムですので、WOSM の求める活動の趣旨を理解し、各部門での達成レベルを考慮しなければなりません。地区コミッショナーは基準を理解し、隊指導者を指導・助言してください。

基準については、今後、日本連盟からテキストが出ると期待されますが、現時点では、WOSM のホームページ

[http://www.scout.org/en/information\\_events/library/environment/world\\_scout\\_environment\\_programme\\_1](http://www.scout.org/en/information_events/library/environment/world_scout_environment_programme_1)にあるものが、最も良いテキストのようです。英文なので読むのは大変だとは思いますが、下手に訳すと誤解を招くおそれがありますので翻訳文は提供しません。原文のままお読みください。基準だといえ、あくまでレベルのイメージをつかむことが重要ですから、辞書片手に見ることで十分理解できると思います。

なお、CS、BS でも、進級課目の当てはめでなく、WOSM のフレームワークのままの方式での取得が可能だということです。その場合は、VS・RS と同様に基準が不明確になりますので、上記資料を参考に判断していただくこととなります。

### ■ ポイント 3

規程 1-8-1 環境教育 が改定になりますが、現行規程を踏襲したものになるようです。バッジ着用期限は、当該区分の終了時までとなります。

### ■ ポイント 4

申請書は【資料 4】で、県連盟ホームページ「各種文書ダウンロード」(<http://bs-hyogo.gr.jp/format/>)に掲載します。地区コミッショナーは取得要件を満たすか確認し、確認ができれば、申請書の確認欄にサインをしてください。各団はそれを持って、県連事務局に提出し、交付を受けます。

確認には、日連ホームページにある、チェックリストを活用すると良いでしょう。

世界スカウト環境プログラム

レベル	CS	BS	VS	RS
1	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。
2	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。
3	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。
4	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。
5	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。	環境教育の重要性を認識し、環境問題に関心をもち、環境問題について学ぶ。

### まめ知識

世界スカウト環境バッジは南極大陸をデザインしたものだそうです。(WOSM のホームページにある英文テキストより)



# Framework for environment education in Scouting and the World Scout Environment Badge

Stage	Educational objectives per age group			Activity guidelines
	Under 11	11 to 14	15+	
<b>A. EXPLORE and REFLECT – Complete activities based on each of the five aims</b>				
 <p>1. People and natural systems have clean water and clean air</p>	<p>Explore the sources of clean water and clean air in the local environment. Understand the ways water and air are naturally cleaned.</p>	<p>Explore the sources of clean water and clean air in the local environment. Identify threats to clean water and clean air in the local and global environment and be able to suggest solutions.</p>	<p>Explore the sources of clean water and clean air in the local environment. Demonstrate the relationship of personal actions to the availability of clean water and clean air in the local and global environment.</p>	<p>Outdoor activities that are fun, allow unstructured exploration, encourage inquisitiveness and generate awareness.</p> <p>Experience based activities that promote environmental learning. These could be practical, physical or achievement based activities.</p> <p>Experience based activities that encourage critical thinking about environmental issues and lead to shared awareness and deepened understanding of the individual responsibility for the environment.</p> <p>Where possible activities should encourage thinking about how the five aims connect with each other.</p>
 <p>2. Sufficient natural habitat exists to support native species</p>	<p>Explore a local natural area. Discover some of the local native species of plants and animals and their habitat needs. Demonstrate knowledge of some contrasting natural habitats.</p>	<p>Explore a local natural area. Understand the ecosystem connections of native species of plants and animals and their habitat needs. Be aware of global conservation issues affecting biodiversity.</p>	<p>Explore a local natural area. Understand the ecosystem connections of native species of plants and animals and their habitat needs. Demonstrate the relationship between personal actions and the availability of sufficient natural habitat to support native species. Be aware of global conservation issues affecting biodiversity.</p>	
 <p>3. The risk of harmful substances to people and the environment are minimised</p>	<p>Be aware of harmful substances in the local environment. Explain ways to reduce the risk of harmful substances to people, plants and animals.</p>	<p>Be aware of harmful substances in the local environment and identify their source. Demonstrate what personal action can be taken to reduce the risk of harmful substances to people and the broader environment.</p>	<p>Explain the local impact of harmful substances to people and the broader environment and what can be done by individuals, groups and the community to reduce the risk. Understand the global impact of harmful substances and how local actions can change the global environment.</p>	
 <p>4. The most suitable environmental practices are used</p>	<p>Show awareness of how our actions affect the environment and alternative ways to make a smaller impact.</p>	<p>Recognise how we are connected with the environment and how we can make informed choices about our actions that can minimise the impact on the environment. Identify potentially better environmental practices for your local area. Demonstrate how local solutions can impact global issues.</p>	<p>Explain how our choice of action and responsibility as an individual, group, community and country can affect the environment. Understand how we can change our actions to improve our impact on the environment. Demonstrate how local solutions can impact global issues.</p>	
 <p>5. People are prepared to respond to environmental hazards and natural disasters</p>	<p>Be able to recognise different types of environmental hazards and natural disasters. Demonstrate how to be prepared and react to environmental hazards and natural disasters in the local area.</p>	<p>Be able to recognise different types of environmental hazards and natural disasters and explain why they occur. Demonstrate how to help other people to be prepared to respond to environmental hazards and natural disasters in the local area.</p>	<p>Be able to recognise different types of environmental hazards and natural disasters and explain why they occur. Demonstrate how to help other people to be prepared to respond to environmental hazards and natural disasters in the local area. Explain how changes to the environment can influence environmental hazards and natural disasters.</p>	
<b>B. TAKE ACTION – Do an environmental project</b>				
 <p>Environmental project that relates to the previous learning and to the local environment</p>	<p>Participate in a local environmental project. Understand the benefits to the local environment of the project. Be aware of the local to global link of the project.</p>	<p>Identify local environmental issues and potential solutions. Plan and execute an environmental project. Understand the local to global connection of the project.</p>	<p>Identify local environmental issues and potential solutions. Plan and execute an environmental project. Understand the local to global connections of the project. Evaluate the results of the project for the Scouts, the community and the environment.</p>	<p>Review learning experiences. Identify local environmental issue and understand local to global link. Plan and implement project. Monitor, evaluate and identify future actions.</p>

## スカウティングにおける環境教育と世界スカウト環境バッジのフレームワーク

ステージ	各年代における教育目標			活動ガイドライン
	11歳未満	11～14歳	15歳以上	
A. 調査と熟考 - 5つのねらいそれぞれに関連する活動をやり遂げる				
 1. 人と自然界がきれいな空気と水を備えていること	地域社会におけるきれいな水と空気の源を調査する。 水と空気が自然にきれいになる仕組みを理解する。	地域社会におけるきれいな水と空気の源を調査する。 地域と地球環境においてきれいな水と空気を脅かすものを認識し、解決方法を提案する。	地域社会におけるきれいな水と空気の源を調査する。 地域と地球環境においてきれいな水と空気が手に入るようにするために、個人の活動がどのような関連性を持っているかを示す。	<p>楽しく、偏らずに調査することができて、好奇心をかき立て、自覚を促すような野外活動。</p> <p>環境学習を促進する経験ベースのプログラム。 実用的で、自然科学に基づく、達成ベースのプログラム。</p> <p>環境問題に対する批判的思考を促し、問題意識を共有し、環境に対する個人の責任とはどのようなものかを理解することができるような、経験ベースのプログラム。</p> <p>それぞれのプログラムは、5つのねらいがそれぞれどのように結びついているかについての理解を促すものであること。</p>
 2. 自生の動植物が生きていくための十分な生息地があること	地域社会の自然地域を調査する。 自生の動植物とその生息地に何が必要なのかを見つける。 いくつかの生息地を対比させてみる。	地域社会の自然地域を調査する。 自生の動植物とその生息地に必要なものの繋がりを生態系を理解する。 生物の多様性に影響を与えている、地球の様々な保護問題について知る。	地域社会の自然地域を調査する。 自生の動植物とその生息地に必要なものの繋がりを生態系を理解する。 種の保存のため、個人の活動と十分な生息地があることの間にはどのような関連性があるかを示す。 生物の多様性について影響を与えている、地球の様々な保護問題について知る。	
 3. 人と環境に対する有害物質の危険性を最小限にすること	地域環境における有害物質について知る。 人や動植物に対する有害物質の危険性を減らす方法を説明する。	地域環境における有害物質について、及びその発生源について知る。 人々や広い環境に対する有害物質の危険性を減らすために、個人がどのような活動ができるかを示す。	人々や広い環境に対する有害物質の影響について、及びその危険性を減らすために個人、グループ、地域社会がどのようなことができるかを説明する。 有害物質が地球環境にどのような影響を与えるか、地域での活動がどのように地球環境を変えるかを理解する。	
 4. 環境に対して最も適切な行動を実践すること	私たちの活動が環境にどのような影響を与えるか、またどうすればその影響を最小限にできるかを知る。	私たちがどのように環境と繋がっているか、そして環境への影響を最小限にするための行動の選択肢をどのように広く知らせていくかについて認識する。 自分の居住地において環境を良くしていくための潜在的な方法について知る。 地域で環境問題を解決していくことがどのように地球の問題に影響を与えるかを知る。	個人・グループ・地域社会・国としての行動と責任の選択が、どのように環境に影響を与えていくかを知る。 私たちの行動が環境への影響をどのように改善していくかを理解する。 地域で環境問題を解決していくことがどのように地球の問題に影響を与えるかを知る。	
 5. 環境被害や自然災害に備えること	環境被害や自然災害にどのようなものがあるのかを知る。 地域社会において、どのように環境被害や自然災害に備え対処していくかを示す。	環境被害や自然災害にどのようなものがあるのかを知り、どうしてそれらが起るのか説明できること。 地域社会において、どのように環境被害や自然災害に備え、他の人々を助けるかを示すこと。	環境被害や自然災害にどのようなものがあるのかを知り、どうしてそれらが起るのか説明できること。 地域社会において、どのように環境被害や自然災害に備え、他の人々を助けるかを示すこと。 環境の変化がどのように環境被害や自然災害に影響するのかを説明できること。	
B. 行動する - 環境プロジェクトを実施する				
 今まで学んできたことや地域社会の環境に関連する環境プロジェクト	地域の環境プロジェクトに参加する。 そのプロジェクトが地域の環境にどのような恩恵を与えるかを理解する。 プロジェクトによる地域社会と地球の繋がりについて知る。	地球の環境問題と、可能性のある解決方法について知る。 環境プロジェクトを計画し実施する。 プロジェクトによる地域社会と地球の繋がりについて理解する。	地球の環境問題と、可能性のある解決方法をj知る。 環境プロジェクトを計画し実施する。 プロジェクトによる地域社会と地球の繋がりについて理解する。 スカウト・地域社会・環境のためのプロジェクトの結果について評価する。	<p>学習経験を見直す。 地域の環境問題を知り、地域社会と地球の繋がりについて理解する。 プロジェクトを計画し実施する。 将来に向けての行動をチェックし、評価し、確認する。</p>

【資料3】 世界スカウト環境プログラム

ステージ	履修課目		
	カブ	ボーイ	ベンチャー・ローパー
A. 調査と熟考 - 5つのねらいそれぞれに関連する活動をやり返げる			
 <p>1. 人と自然界がきれいな空気と水を備えていること</p>	<p>「自然保護」                      ・細目ウ-(ア):「下水溝、川や池の周りのごみを取り除き、きれいにする。」                      ・細目ウ-(ウ):「自然環境調査に参加する」</p> 	<p>「環境保護」                      ・細目1:「水または酸素の循環について知り、河川または大気汚染とその影響を説明する」                      ・細目3:「住んでいる地域のおもな公害の種類を調べその内の1つの原因について説明する」                      ・細目6:「『スカウト環境行動スローガン』を説明する」</p>	<p>地域社会におけるきれいな水と空気の源を調査する。地域と地球環境においてきれいな水と空気が手に入るようにするために、個人の活動がどのような関連性を持っているかを示す。</p>
 <p>2. 自生の動植物が生きていくための十分な生息地があること</p>	<p>「自然観察官」(細目アまたはイのいずれかを履修する)                      「自然に生息する動物/植物から1つを選び、その内の5種類を観察してその様子や特徴を調べ記録する。」</p> 	<p>(いずれかを選ぶ)                      「自然愛護」                      ・細目2:「自然愛護について地域の環境改善に役立つことを計画する」                      ・細目4:「ハイキング等で異なる地点3か所の土または水を、そこに見られる生物等を含めて観察し比較する」                      「森林」                      ・細目2:「ハイキングで森林の木の種類を調べ植生地図を作り、できれば木の実、落ち葉や土壌のサンプルを添付する」                      ・細目6:「森林に害を与えるものについて調べ、その原因と害を予防または防止するためにできることを説明する」                      「野生生物」                      ・細目3:「身近なところで野生生物を観察するプログラムを企画し、班または隊集会にて実施する」                      ・細目4:「日本における絶滅危惧種について調べ、保護するためにどのような対策が取られているかを説明する」</p>	<p>地域社会の自然地域を調査する。自生の動植物とその生息地に必要なものの繋がりから生態系を理解する。種の保存のため、個人の活動と十分な生息地があることの間にはどのような関連性があるかを示す。生物の多様性について影響を与えている、地球の様々な保護問題について知る。</p>
 <p>3. 人と環境に対する有害物質の危険性を最小限にすること</p>			<p>人々や広い環境に対する有害物質の影響について、及びその危険性を減らすために個人、グループ、地域社会がどのようなことができるかを説明する。有害物質が地球環境にどのような影響を与え、地域での活動がどのように地球環境を変えるかを理解する。</p>
 <p>4. 環境に対して最も適切な行動を実践すること</p>			<p>個人・グループ・地域社会・国としての行動と責任の選択が、どのように環境に影響を与えていくかを知る。私たちの行動が環境への影響をどのように改善していくかを理解する。地域で環境問題を解決していくことがどのように地球の問題に影響を与えるかを知る。</p>
 <p>5. 環境被害や自然災害に備えること</p>	<p>「災害救助員」                      ・細目ア:「災害が起きたときの集合場所などを、家族で相談し決めておく」                      ・細目イ:「災害時に緊急に持ち出す必要なものを一つの荷物にまとめて準備しておく」</p> 	<p>「防災」                      ・細目1:「災害に遭った場合の心構えを知り防災意識が高まるように家族で話し合いをする」                      ・細目2:「災害に遭遇した場合の避難方法について説明する」</p> 	<p>環境被害や自然災害にどのようなものがあるのかを知り、どうしてそれらが起るのか説明できること。地域社会において、どのように環境被害や自然災害に備え、他の人々を助けるかを示すこと。環境の変化がどのように環境被害や自然災害に影響するのかを説明できること。</p>
B. 行動する - 環境プロジェクトを実施する			
 <p>今まで学んできたことや地域社会の環境に関連する環境プロジェクト</p>	<p>下記のいずれかを選ぶ                      (A) 団・地区・県連盟が企画した環境プロジェクトに参加する。                      (B) 日本連盟が主催する環境に関するプロジェクトに参加する。</p>	<p>下記のいずれかを選ぶ                      (A) 団・地区・県連盟が企画した環境プロジェクトに参加する。                      (B) 日本連盟が主催する環境に関するプロジェクトに参加する。</p>	<p>下記のいずれかを選ぶ                      (A) 団・地区・県連盟が企画した環境プロジェクトに参加する。                      (B) 日本連盟が主催する環境に関するプロジェクトに参加する。</p>

兵庫連盟事務局長様

平成 年 月 日



# 世界スカウト環境バッジ交付申請書

【資料4】

ボーイスカウト兵庫連盟 \_\_\_\_\_ 第 \_\_\_\_\_ 団

団委員長 \_\_\_\_\_ (印)

教育規程1-8-1により下記のスカウトについて世界スカウト環境バッジの交付を申請します。

記

No.	氏名	登録番号	年齢	所属
例	兵庫 太郎	〇〇〇〇-〇〇〇〇〇〇	10	カブスカウト
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

合計 \_\_\_\_\_ 人

地区・県連盟処理欄		
受理(地区)	地区コミッショナー確認	交付(県連盟)
平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日